

## プロジェクト課題活動実績

### 課題名：新規就農者（夏秋トマト+わさび）の経営安定

周南農林水産事務所農業部      チーム員：出穂、久保、国信、吉松、倉重

#### <活動事例の要旨>

周南市の農業担い手確保へ向けた取組である「新規就農者パッケージ支援制度（以下、支援制度）」について、関係機関との連携強化を図りながら、支援制度の充実・整備に係る支援（就農候補者募集、施設等整備、出荷に係る情報提供等）を実施した。また、就農2～3年目の新規就農者6名（以下、生産者）の早期経営安定を図ることを目的として技術指導等を実施した。

今後も、周南地域における就農希望者の受入体制の強化を通じて産地の活性化を図るとともに、生産者の経営安定へ向けた支援を行う。

#### 1 普及活動の課題・目標

- ・新規就農者の生産安定  
令和2年産目標単収 夏秋トマト：10 t /10a、ハウスわさび：3.5 t /10a
- ・新たな産地としての夏秋トマト、わさびの出荷・販売体制強化
- ・新規就農希望者の確保と受入体制の整備

#### 2 普及活動の内容

- ・営農を開始した生産者に対し、栽培技術向上を目的として、夏秋トマト、ハウスわさびの栽培技術研修会の開催、生育調査等に基づく管理指導を実施した。
- ・先進産地生産者と交流し、栽培技術向上等を図ることを目的として、県内夏秋トマト産地の協力を得ながら、産地で行われる技術研修会への生産者の参加を誘導した。
- ・夏秋トマトとハウスわさびの生産・出荷状況についてJ A及び市と情報交換を行い、出荷・販売体制の整備に関する側面的支援を行った。また、わさびは販売先と一緒に現地巡回を行い情報共有した。
- ・生産者を対象にトマト栽培反省会を行い、生産者間の意見交換を行うとともに次作の課題を抽出した。
- ・本支援制度を利用する就農希望者の募集活動（W e bを活用した募集活動への参加等 6回）支援を行った。
- ・支援機関（市、J A、農水事務所）の情報共有や課題把握及び課題解決策の協議を目的として、定期的な（月1回）協議を開催した。

#### 3 普及活動の成果

- ・生産者6名の単収はトマト約7～10 t /10 a、わさび120kg～1.2 t /10 a（R2, 5収穫）と目標未達成。低収量要因として、トマトは、定植遅れと夏季の異常高温、令和2年産5月収穫わさびについては、育苗中の病害発生と生育不良、定植初期の管理不足が要因と考えられた。現在、わさび苗優良生産にむけ農林総合技術センターの協力のもと培土試験を開始した。
- ・トマトの出荷・販売体制については、J Aと地元スーパーの協力により円滑な出荷が実施された。
- ・地域初の取組である、わさびの夏越し栽培に取り組み、他生産者と情報共有できた。
- ・支援機関と定期的な協議の場を設定することにより、課題解決に向けた対策、新規就農者募集に関する協議、情報共有を行うことができた。



現地研修会



わさび夏越し栽培（8月）



現地巡回指導（トマト）



販売先との巡回（わさび）

#### 4 今後の普及活動に向けて

- 生産技術向上に向けた技術指導を継続実施し、目標単収の早期確保を図る。
- 生産技術力のみならず、ライフプランやマーケティング、労働改善などの経営管理力も加えた幅広い支援を行う。
- 本支援制度による安定した受入を継続実施するため、引き続き関係機関との連携を図る。
- 市が積極的に実施する募集活動を支援するとともに、県域で行われる新規就農者の募集活動情報を収集し、多くの就農希望者と接する機会を増やすための支援を続ける。
- 新たな産地としての「グループ意識」を醸成し、生産者相互の互助機能を高める。